



Science & Technology Stadium



採用情報

<https://www.nra.go.jp/nra/employ/index.html>

 原子力規制委員会
Nuclear Regulation Authority
〒106-8450 東京都港区六本木1丁目9番9号 六本木ファーストビル

□ お問い合わせ先 □

原子力規制庁 長官官房 人事課 採用担当
TEL.03-5114-2104 MAIL.recruit_nra@nra.go.jp

□ 最寄駅 □

- ・東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」徒歩4分
- ・東京メトロ日比谷線「神谷町駅」徒歩8分



Science & Technology Stadium

原子力の規制には、原子力分野に限らず、化学・物理・生物・工学・土木・建築など多岐にわたる分野の科学技術の知識が必要です。原子力規制委員会では、これら様々な知識を学んできた職員が、世代や立場にとらわれず、積極的に意見を発し、議論を重ねながら、使命感、責任感そして緊張感をもって業務に取り組んでいます。「原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守る」という使命のもと、原子力規制委員会でこれまで学んできたことを活かしてみませんか？

原子力規制委員会とは

〔組織理念〕

原子力規制委員会は、2011年3月11日に発生した東京電力福島原子力発電所事故の教訓に学び、二度とこのような事故を起こさないために、そして、我が国の原子力規制組織に対する国内外の信頼回復を図り、国民の安全を最優先に、原子力の安全管理を立て直し、真の安全文化を確立すべく、設置された。原子力にかかわる者はすべからず高い倫理観を持ち、常に世界最高水準の安全を目指さなければならない。我々は、これを自覚し、たゆまず努力することを誓う。

〔使命〕

原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守ることが原子力規制委員会の使命である。

〔活動原則〕

原子力規制委員会は、事務局である原子力規制庁とともに、その使命を果たすため、以下の原則に沿って、職務を遂行する。

（目次）

■ 原子力規制委員会とは	03
■ 組織図	04
▼ 職務紹介	
● 原子力規制部	06
● 放射線防護グループ	08
● 技術基盤グループ	10
● 長官官房	12
■ 出向者紹介	14
▼ キャリアパス	
● 総合職・技術系	16
● 一般職・技術系	16
● 一般職・事務系	18
● 研究職	18
■ 人材育成・研修制度	20
■ ワークライフバランス 職員のとある2日間	22
■ 数字で見る 原子力規制委員会	23
■ 新人職員対談	24
■ 職員へのアンケート	26
■ 地方の体制	28
■ 地方勤務職員インタビュー	29
■ 採用情報	30
■ 委員長メッセージ	31

独立した
意思決定

何ものにもとらわれず、科学的・技術的な見地から、独立して意思決定を行う。

実効ある
行動

形式主義を排し、現場を重視する姿勢を貫き、真に実効ある規制を追求する。

緊急時
即応

いかなる事態にも、組織的かつ即座に対応する。また、そのための体制を平時から整える。

透明で
開かれた
組織

意思決定のプロセスを含め、規制にかかわる情報の開示を徹底する。また、国内外の多様な意見に耳を傾け、孤立と独善を戒める。

原子力規制委員会

向上心と
責任感

常に最新の知見に学び、自らを磨くことに努め、倫理観、使命感、誇りを持って職務を遂行する。

組織図

(令和7年2月1日現在、一部抜粋)



P.31
委員長 山中 伸介

原子力規制委員会

審議会等

- 放射線審議会
- 国立研究開発法人審議会
- 核燃料安全専門審査会
- 原子炉安全専門審査会

原子力規制庁(事務局)

長官官房

監査・業務改善推進室



P.19
船田 晃代



P.16
二平 舜介



P.12
和泉 旭紀



P.18
朝岡 玲菜



P.13
風間 百香



P.24
石川 裕真

総務課

人事課

会計部門

法務部門

緊急事案対策室

委員会運営支援室

公文書監理・情報化推進室

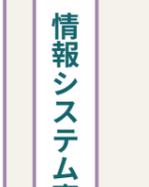
地域連絡調整室



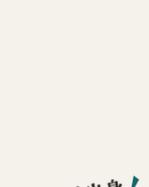
P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



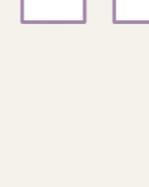
P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代



P.19
船田 晃代

原子力規制部

原子力規制企画課

東京電力
福島第一原子力発電所
事故対策室

火災対策室



P.17
岩永 宏平



P.16
南 明穂



P.17
渡邊 達樹

審査グループ

- 地震・津波審査部門
- 核燃料施設審査部門
- 研究炉等審査部門
- 高経年化審査部門
- 実用炉審査部門



P.07
伊藤 拓哉



P.18
伊藤 勇斗



P.07
高草木 寧緒



P.24
佐藤 優加



P.17
西崎 崇徳



P.22
加藤 美穂



P.21
穂藤 優次



P.27
高橋 知也



P.17
立元 恵



P.27
島田 真実



P.27
杉山 紗耶

検査グループ

- 専門検査部門
- 核燃料施設等監視部門
- 実用炉監視部門
- 検査監督総括課
- 検査評価室



P.16
河合 潤



P.06
井上 大志



P.29
杉岡 雄仁



P.28
西村 正美

技術基盤グループ

- 地震・津波研究部門
- 放射線・廃棄物研究部門
- シビアアクシデント研究部門
- システム安全研究部門
- 技術基盤課



P.19
青野 健二郎



P.11
廣井 良美



P.11
園田 大貴



P.19
田島 礼子



P.18,24
佐々木 瑛麻



P.10
仲宗根 峻也



P.18
瀧澤 真

放射線防護グループ

- 放射線規制部門
- 核セキュリティ部門
- 監視情報課
- 放射線環境対策室
- 放射線防護企画課
- 保障措置室



P.09
阪本 瑠璃



P.16
笹平 琳子



P.19
山下 恵太郎



P.24
東 知希



P.09
鈴木 凜



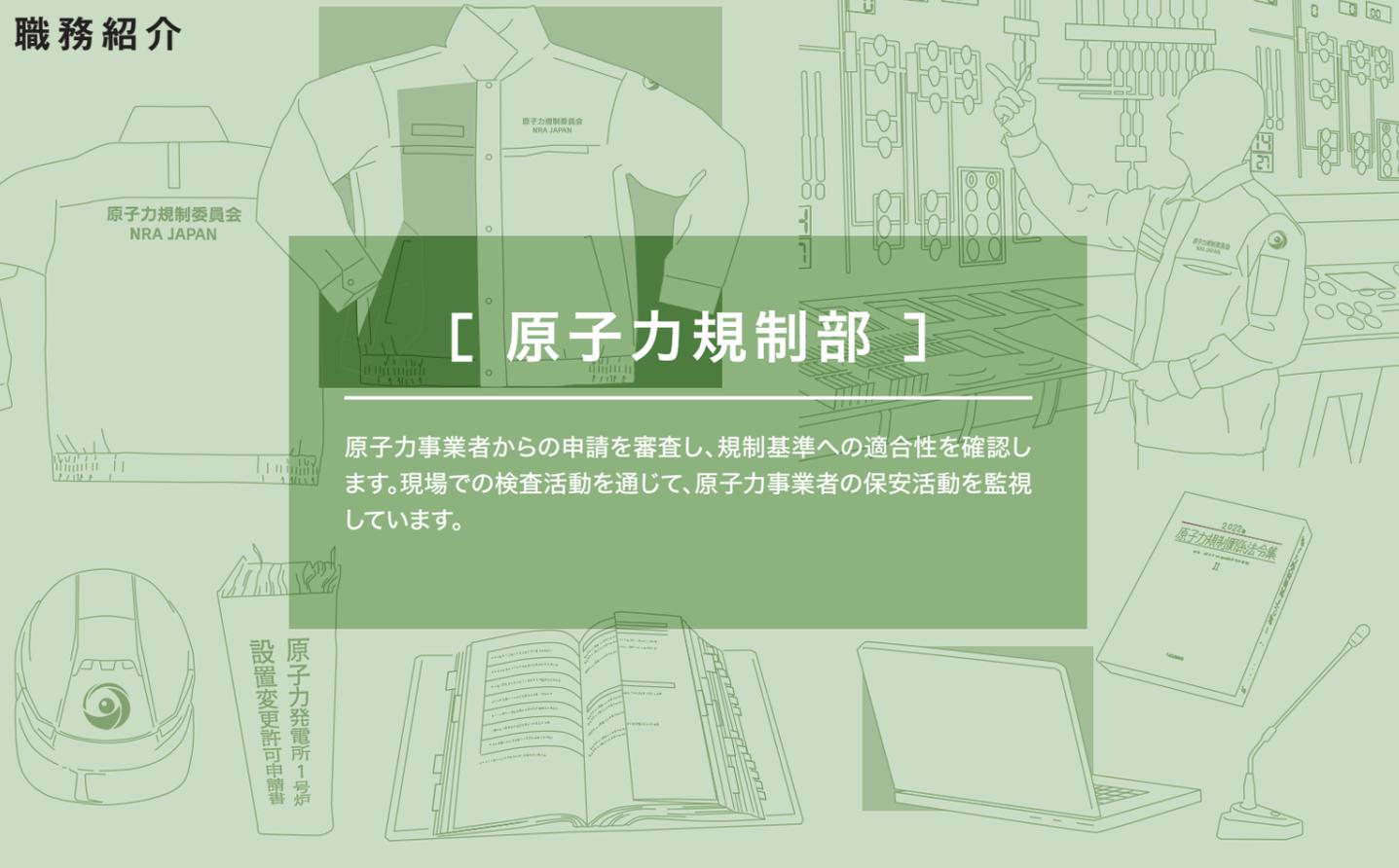
P.21
落合 美里

地方の体制

- 六ヶ所所保障措置センター
- 原子力艦モニタリングセンター(3か所)
- 地域原子力規制総括調整官事務所(3か所)
- 原子力規制事務所・分室(25か所)



職務紹介



〔原子力規制部〕

原子力事業者からの申請を審査し、規制基準への適合性を確認します。現場での検査活動を通じて、原子力事業者の保安活動を監視しています。

伊藤 拓哉

一般職(大卒・物理)
平成27年度入庁
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門
都市教養学部 都市教養学科
理工学系 物理学コース



「上司と部下が同じ土俵で徹底討論」

若いうちから重要な意思決定に関与しプレイヤーとしての面白さを実感

原子力発電所の審査を担当する部署で、設計が基準を満たしているか、適切な運用ルールが整備されているかを審査しています。大きな責任を伴う業務なので、なぜそのような判断をしたのか、根拠を論理的に説明できるよう頭の整理を心掛けています。原子力規制委員会は、科学的・技術的な見地から判断する組織であり、その下



では職員は対等に議論できるため、若いうちから重要な意思決定に関与できるなど、良い緊張感とそれ以上にプレイヤーとしての楽しさを感じることが出来ます。今後は、原子力施設の設置から廃炉まで幅広く携わりたいです。

「より良い検査制度を目指し、アンテナ高く業務に邁進」

中間貯蔵施設の稼働や原子力発電所の運転再開など様々な変化の中でも充実した原子力規制行政を！

原子力事業者の保安活動が適切に実施されているか厳正に監視するための検査制度を担当する部署に所属し、制度の見直しや、必要な予算措置、原子力規制事務所に勤務する検査官の環境整備等に関する業務を担当しています。前例にとらわれないやり方



で進める必要のあった業務を担当した際に、上司から判断の多くを委ねてもらい、成長を感じられる機会や活躍の場が多い、魅力ある職場だと感じています。

井上 大志

総合職(院卒・工学) 令和2年度入庁
原子力規制部 検査グループ 検査監督総括課
工学研究科 原子力・エネルギー安全工学専攻(修士)



「1年目でも責任感をもって公の会合で発言」

審査会合の準備から出席まで幅広い日本唯一の仕事にやりがいを感じる

私の所属する部署では、原子力発電所が規制基準に適合しているかを審査しています。そこでの私の仕事は、原子力事業者とのスケジュール調整等のサポート業務から、審査会合への出席まで、多岐にわたります。入庁1年目ながら、生配信される審査会合で発言する機会があるなど、日々、気を引き締めて取り組んでいます。仕事内容は厳格なものですが、親しみやすい先輩ばかりで、コミュニケーション能力等、仕事に向き合う姿勢も学んでいます。



高草木 寧緒

一般職(大卒・機械) 令和6年度入庁
原子力規制部 審査グループ 実用炉審査部門
工学研究科 金属フロンティア工学専攻(修士)



職務紹介

「放射線防護グループ」

被ばくによる影響から人と環境を守るための政策を立案、実施します。テロ、災害、兵器利用等に関する規制、対策、監視等を実施します。

「モニタリング情報を
分かりやすく国内外へ」

国際機関と共同で
環境中の放射性物質を測定

東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の濃度や拡散状況を把握するモニタリング業務を担当しています。測定結果は福島県内の避難指示解除の判断に活用されることもあり、正確な情報を国内外に分かりやすく発信することを心掛けています。様々な経歴を持つ職員が集まる組織であり多様な価値観に触れられる環境なので、自身の知見や視野が広がっていくことを実感できます。



東 貴之

一般職(大卒・機械)
平成26年度入庁
放射線防護グループ
監視情報課
工学部 機械知能・航空工学科



阪本 瑠璃

一般職(大卒・行政)
平成30年度入庁
放射線防護グループ
放射線規制部門
法学研究科
法務専攻(博士)



「規制制度の変化に立ち会える
スケールの大きな仕事」

海外の情報を収集し
国内の制度をより効果的なものに

私が所属している放射線規制部門は、主に、全国の放射性同位元素等を使用する事業所の規制を行っている部署です。その中で私は、国内の規制制度をより良いものにするために国際機関からアドバイスをもらう「国際レビュー」への対応や、海外の規制制度に関する情報収集を担当しています。国際的な情報等を取り入れて国内の規



制制度がどう変化していくかを第一線で体感でき、とても興味深いです。また、このスケールの大きな業務の一端を担っていることは大変やりがいがあり、同時に責任の大きさも感じています。

「核物質の平和利用を支える」

国際会議への参加で
海外の保障措置についても学ぶ

核物質は、少量であっても核兵器等へ転用されるリスクがあるため、発電や技術研究等の平和目的だけで利用されることを確認する必要があります。私は、このような検認活動(保障措置)を実施するために必要な予算執行や契約業務等を主に担当しています。また、海外出張の機会が多い部署であるため、国際会議に出席するだけでなく、英語での資料作成等、新たな業務への挑戦で経験を積んでいます。



鈴木 凜

一般職(大卒・行政)
令和5年度入庁
放射線防護グループ
放射線防護企画課
保障措置室
法学部 法学科



職務紹介

【技術基盤グループ】

原子力に関わる安全研究を行い、新知見を規制基準に反映します。蓄積した知見に基づき、原子力規制部が行う審査等の支援を実施します。

「学会で研究成果を発表する達成感が次への活力に」

研究の規模の大きさ
圧倒的スケールを実感

原子力施設等の運転又は廃止措置により発生する、クリアランス対象物*の安全性確認手法に関連した研究を行っています。国の事業として研究に取り組むため、研究成果が社会にどのように還元されるのかを意識する場面が多いです。発表できる段階まで成果を取りまとめる大変さがありますが、研究計画・実験・議論を通じて大切に温めてきたものを、ひとつの形として学会等で成果を公表できたときには嬉しさもひとしおで、次の研究業務への活力になります。

※クリアランス対象物・・・原子力施設等から発生する廃棄物の中で、放射線量が自然界の放射線量と比較して十分に小さく、再利用・再使用又は一般産業廃棄物と同様な処分を行ったとしても、人への健康への影響が無視できるため、安全上放射性廃棄物として扱う必要のないもの

仲宗根 峻也

研究職 令和4年度入庁
技術基盤グループ
放射線・廃棄物研究部門
理工学研究科
海洋環境学専攻
(博士)



園田 大貴

研究職 選考採用
平成26年度入庁
技術基盤グループ
システム安全研究部門
工学研究科
応用理学専攻(修士)



「研究が社会貢献につながる実感」

シビアアクシデントの解析からリスク評価まで幅広く次世代炉の安全を研究する

政府が次世代炉として掲げる高速炉や高温ガス炉の安全研究に携わっており、その内容はシビアアクシデント(重大事故)の解析からリスク評価まで多岐にわたります。次世代炉の審査を技術的にサポートするには、設計や安全上の特徴を熟知していなければいけません。



そのため、事故解析用プログラムの整備や事故のシミュレーション、リスク評価を通じて、次世代炉に関する技術的知見の蓄積を進めています。研究成果が規制に活用されるなど、研究を通じて社会貢献できることにやりがいを感じます。

「火山の活動履歴を丹念に読み取る」

大学や研究所との共同研究で
自ら研究環境を構築、可能性が広がる

原子力施設への影響評価を行うべき自然災害の一つに火山噴火があります。私は、過去に巨大噴火を生じた火山を対象に、噴火の履歴を丹念に調べ、現在の活動状況の評価するため、手がかりとなる情報を抽出する研究を行っています。原子力規制庁は研究施設を持たないため、大学等と共同で研究を行います。自分で研究環境を構築し、扱える機器や得られるデータの種類が増え、可能性が広がっていくことにやりがいを感じます。

また、審査支援も担当しており、審査で議論の焦点になった火山性堆積物について的確にコメントし、その後の審査が進んだ際には、これまで培ってきた専門技術を役立てることができ、嬉しく思いました。



廣井 良美

研究職 平成29年度入庁
技術基盤グループ
地震・津波研究部門
理学研究科 地学専攻(博士)





職務紹介

〔長官官房〕

政策立案や人員・予算の確保、国際機関を含む他機関との調整、広報活動等、様々な角度から原子力規制を支える業務を行います。原子力災害等が発生した際の緊急時対応も担います。

白書作成から働き方改革まで
庁内全体に係る事案を調整

所属する総務課は各府省庁等との窓口業務や庁内の部署との調整業務を行っています。私は、その中で窓口業務を主に担当し、白書作成等の行政機関としての恒常的な業務から、働き方改革やエネルギー政策等のようなその時々が発生する様々な業務まで、原子力規制庁に関するものかを判断しながら組織内外との調整を行っています。こうした幅広い業務を通じて、原子力規制への理解を深めるだけでなく、法律等の知識も得ることができ、自らの成長を感じることができています。



和泉 旭紀

総合職(院卒・化学 生物 薬学)
令和6年度入庁
長官官房 総務課
工学系研究科
化学生命工学専攻(修士)



風間 百香

一般職(高卒・事務)
令和6年度入庁
長官官房 人事課
グローバル特進コース



「職員のことを隅々まで知る」

人事の手続きは漏れなく遅滞なく！
計画性や管理能力が大切

人事異動や原子力規制庁独自の任用資格に関する事務手続き、人事制度に関する職員向け説明会の調整等を担当しています。個人情報を取り扱う業務が多いため、情報漏洩がないよう、細心の注意を払いながら業務に携わっています。また、日々の業務で直面する課題を解決する過程で、論理的思考力や判断力も鍛えられています。



「国有財産の管理が
予算の正しい執行につながる」

緊張感のある業務も
他の職員と協力してやり遂げる

私の主な業務は国有財産の管理です。国有財産とは、国の負担で国の所有となった財産等で、土地、庁舎、宿舍等が該当します。この「原子力規制庁の持ち物」を適切に管理することは、予算を正しく使用し、職員の働く場所等をより良いものにするために必要な業務です。高価な国有財産を扱うこともあり、価格の高さに比例して責任も重くなりますが、他の職員



と協力しながら責任の大きな業務を進めることにやりがいを感じます。

金井 菜々子

一般職(大卒・行政)
平成31年度入庁
長官官房 会計部門
教育学部



出向者紹介



国内外の各省庁や国際機関など、
その出向先は様々。
多数の職員が庁外で活躍しています。

内閣官房 内閣人事局
マネジメント向上担当
人材育成担当



「働きやすい環境を
全国の国家公務員に届ける」

働き方の多様化が進む中で、国家公務員が働きがいと働きやすさを実感できる環境づくりに取り組んでいます。人事行政の分野は明確な答えがなく、手探りで進める難しさがありますが、施策の企画立案の自由度が高く、イメージを形にして全国の国家公務員に届けられたときの達成感は、内閣人事局の業務ならではの魅力だと感じます。

総合職(院卒・工学) 平成28年度入庁 理工学研究科 原子核工学専攻(修士)

杉立 大和

環境省 大臣官房総務課
国会連絡室



「リアルタイムで
国会に触れる」

原子力規制庁の代表として、国会議事堂に隣接する参議院別館で、国会の情報収集や国会議員等から環境省・原子力規制庁への様々な依頼の窓口を担当しています。ニュースで見る国会にリアルタイムで触れながら、国全体に関わる予算・法案等を審議する現場で働くことは貴重な機会です。また、他府省庁の職員と接する機会が多く、横の強いつながりが得られるのも魅力です。

一般職(大卒・化学) 令和3年度入庁 理学部 化学科

高宮 由里

「自分の仕事が
日本の安全に直結している」

自然災害や原子力災害を含む重大事故、重大事件など、国家の緊急事態が発生した場合に官邸に駆けつけて対処する、内閣官房の「事態室」に勤務しています。休日や早朝・深夜であっても、緊急事態に直ちに対処する必要があるため、常に緊張感を持って臨んでいます。日本の平和・安全に直結する業務であるため、やりがいを強く感じています。

内閣官房 副長官補
(事態対処・危機管理担当)付



総合職(大卒・工学) 平成30年度入庁 工学部 エネルギー科学科

小西 興治

「地域の原子力防災体制の
充実・強化に向けて」

原子力規制委員会が策定した原子力災害対策指針を基に、避難経路の確保や放射線防護対策施設の整備等、地域が抱える原子力災害対応に関する課題を解決するため、関係省庁とも連携して、財政的支援や地域防災計画・避難計画の具体化・充実化に向けた検討・調整を行うなど、地域の原子力災害対応の実効性向上に取り組んでいます。地元の声をどう施策へ反映していくか、その重要性和困難さを日々実感しています。また、内閣府には、各省庁からの出向者はもとより地方公共団体からの出向者も在籍しており、良い刺激を受けています。

内閣府 政策統括官
(原子力防災担当)付
参事官(地域防災担当)付



一般職(大卒・物理) 平成26年度入庁 理学部 物理学科

須藤 貴史

国際原子力機関(IAEA)
保障措置局実施部



「欧州を舞台に核物質の
平和利用を見守る」

ウィーンを拠点として、国際原子力機関(IAEA)の保障措置局において、各国の核物質が軍事転用されていないことを確認するための現地査察・検認活動に従事しています。日本での保障措置査察官としての経験を生かしつつ、各国の文化の違いを考慮しながら任務を遂行するよう心掛けています。多国籍かつ幅広い年代の同僚と様々な視点で議論できる環境も魅力的です。

選考採用(II種相当) 平成15年度 文部科学省入省 工学部第四類(建設系)

川末 朱音



キャリアパス

総合職・技術系



南 明穂

総合職(院卒・化学 生物 薬学)
令和5年度入庁
原子力規制部 原子力規制企画課 係員
薬学部 薬学科

係員級

原子力の規制に関する仕事は奥が深く、新しいことを知る喜びがある

現在、規制基準の検討や民間規格の技術評価を担当しています。原子力規制は奥が深く、新しいことを知る喜びや面白さが常にあります。また、自分が関わった業務がニュースで流れると、生活と密接した影響の大きいものであることを実感でき、やりがいにつながっています。



二平 舜介

総合職(院卒・工学)
平成31年度入庁
長官官房 総務課
監査・業務改善推進室 監察官
工学院
エネルギー環境システム専攻(修士)

係長級

若手でも施策を提案し実現へ！コミュニケーションを大事にする組織

規制や災害対策の業務を経て、現在は組織の運営や業務改善等を担当しています。自分の仕事が組織のためになっているか悩むことも多いですが、働きやすくなったとの声が聞こえた時は、やりがいを感じます。若手のうちから施策の提案や議論に参加できることは、この組織の魅力です。



渡邊 達樹

総合職(院卒・化学 生物 薬学)
平成26年度入庁
原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所
事故対策室 室長補佐(総括担当)
理工学研究科
原子核工学専攻(修士)

補佐級

留学制度を使ってカナダで英語と経営学を学ぶ

これまで幅広い業務を経験しつつ、直近に担当した検査制度検討の改善業務では、海外規制機関との交流などを経て、規制制度の知見を深める経験ができました。また、係長時代には留学制度を使って、カナダで2年間勉強したことも、貴重な経験となりました。



西崎 崇徳

I種(理工I)
平成15年度 経済産業省入省
原子力規制部 審査グループ
高経年化審査部門
安全規制管理官
工学研究科
原子核工学専攻(博士)

管理職級

業務の方向性や優先順位を仲間と相談実行していくことが大きなやりがい

現在、原子力発電所の長期間運転に係る審査業務を担当しています。管理職として、トラブルなどへの重要な判断を速やかに求められる大変さもありますが、職場のワークライフバランスを大切に、仲間と相談しながら業務を実行することがやりがいにつながっています。

一般職・技術系



河合 潤

一般職(原子核工学)
令和6年度入庁
原子力規制部 検査グループ
検査監督総括課 係員
工学部 機械・システム工学科

係員級

休暇やテレワークを活用し、仕事も生活も充実したものに

検査監督総括課で部署の窓口業務に携わっています。各地方事務所から受け取る様々な情報に現場の動きを感じ、仕事への意識がより高まります。ワークライフバランスも大事にされており、休暇やテレワークも積極的に活用できるので、充実した社会人生活を送ることができます。



笹平 琳子

一般職(大卒・物理)
平成28年度入庁
長官官房
放射線防護グループ
監視情報課 係長
理学部
宇宙地球物理学科

係長級

自分の発言が国の見解になる責任の重さとやりがい

原子力災害に伴う緊急時モニタリングの制度設計や訓練の企画、環境放射線モニタリングの技術開発等を担当しています。自治体や報道機関、外国の政府機関等からの問い合わせを受けることもあり、自分の発言が国としての見解になる責任の重さとやりがいを感じます。



立元 恵

II種(物理)
平成19年度 文部科学省入省
原子力規制部 審査グループ
研究炉等審査部門 管理官補佐
理学部 物理学科

補佐級

大学院で1年間学業に専念した経験が行政官としての基盤に

原子力施設の審査、原子力防災に係る予算業務や法令審査等、様々な業務を経験してきました。また、原子力の基礎知識から専門知識まで集中的に学ぶため、専門職大学院の原子力専攻で1年間、学業に専念する機会をもらいました。その学びは今も、行政官としての基盤になっています。



岩永 宏平

選考採用(II種相当)
平成19年度 文部科学省入省
原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所
事故対策室 室長
理工学研究科
原子核工学専攻(博士)

管理職級

原発事故という世界的にも困難な仕事に立ち向かう

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室では、処理水の海洋放出や燃料デブリの取り出し、事故の分析等、多岐にわたる業務を行っておりますが、室長として、世界的にも稀に見る困難な仕事にやりがいを持って取り組んでいます。ぜひ私たちと一緒に挑戦しましょう！

キャリアパス

一般職・事務系



朝岡 玲菜

一般職(大卒・行政)
令和6年度入庁
長官官房 総務課 広報室 係員
文学部 哲学科

係員級

原子力規制庁の活動を正しく報道してもらうために情報発信を工夫する

広報室で、定例会見の準備やプレスリリースの配布等の業務を担当しています。原子力規制委員会では活動原則に「透明で開かれた組織」を掲げ、情報発信を重視しているため、私達の活動を報道機関から正確に発信してもらえるよう、情報提供の内容や方法を工夫しています。



伊藤 勇斗

一般職(大卒・行政)
平成27年度入庁
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門 安全審査官
教養学部 学際科学科

係長級

事務系職員と技術系職員の垣根なく、意欲次第で様々な業務を経験できる

私は事務系職員ですが、1年間集中して専門知識を学べる研修の受講を経て、現在は、技術系職員が多く活躍する原子力発電所の審査を担当しています。原子力規制庁は、採用区分の枠にとらわれず、能力や意欲次第で様々な業務に携わることができる組織だと思います。



山下 恵太郎

選考採用(II種相当)
平成27年度入庁
長官官房 放射線防護グループ
監視情報課 放射線環境対策室
室長補佐(総括担当)
放射線環境対策官
理工学部 建築学科

補佐級

経験者採用で再び公務員に異業種での経験を業務に活かす

環境放射線モニタリングを行う自治体等への予算配分や原子力災害対策業務を担当しており、関係者間の調整業務が多いため、良好な関係の構築を意識して業務を進めています。私は、他省や民間企業等での勤務経験があり、その経験を活かしながら、業務にあたっています。



船田 晃代

選考採用(II種相当)
平成28年度入庁
長官官房 総務課 国際室 室長
法学部 法律学科

管理職級

異動ごとに全く違う業務を担当どの部署でもポジティブに!

原子力発電所の審査を担当する部署での窓口業務、原子力規制委員会の運営支援や政策評価等を経験し、現在は国際業務を担当しています。様々な業務内容の部署がありますが、どの業務も楽しさや学びがあるので、ポジティブな面に目を向けて仕事を進めるようにしています。

研究職



佐々木 瑛麻

研究職
令和6年度入庁
技術基盤グループ
放射線・廃棄物研究部門
技術研究調査官
人間健康科学研究科
放射線科学域(修士)

係員級

世界のフィールドで活躍する上司を目標に日々勉強中

放射線防護に関する調査研究を担当しています。国際機関に関わる業務が多く、英語の文書に苦戦中なので、これを克服するために、現在、英語を勉強中です。国際機関で議長を務めている上司もいて、日本だけでなく、世界をフィールドに活躍する姿を目標にしています。



瀧澤 真

研究職 選考採用
(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ
システム安全研究部門
副主任技術研究調査官
理工学研究科 材料工学専攻(修士)

係長級

海外機関との共同研究を通じて専門知識を深める

原子力施設での火災防護に関する研究を担当しており、また、フランスの研究機関との共同研究に主担当者として参画しています。共同研究では、フランスで6週間にわたる解析作業を経験し、専門知識を深めるとともに、研究の進め方の違いを肌で感じる事ができました。



田島 礼子

研究職 選考採用
平成29年度入庁
技術基盤グループ
地震・津波研究部門
主任技術研究調査官
理学部
地球惑星システム学科
(博士)

補佐級

正確な予測が難しい自然現象研究を通じて科学と行政をつなぐ

過去の地震の情報収集や分析、地震動の評価に必要な解析モデル等の信頼性向上に関する研究等を担当しています。研究から得られた新たな知見を社会(行政)とつなぐ役割にやりがいを感じています。多岐にわたる専門性を持つ職員がいて、気軽に議論しやすい環境です。



青野 健二郎

研究職 選考採用
(原子力安全基盤機構採用)
技術基盤グループ
シビアアクシデント研究部門
安全技術管理官
工学部
金属・材料系材料加工学科

管理職級

目標を達成するために風通しのよい職場環境を心掛ける

技術基盤グループの業務は、研究を通じて原子力安全に寄与する最新知見を蓄積し、規制活動に技術根拠を与えることです。業務管理者として、目標達成のため、関係者が各段階でよく議論し、認識を共有して業務を進めること、風通しの良い職場環境の構築を心掛けています。

働く職員の成長を支援する

原子力規制委員会には、研修等の人材育成を担当する機関として「原子力安全人材育成センター」があり、多種多様な研修を用意しています。



（専門性を磨く）

新規採用研修

- 公務員としての振る舞いの習得
- 英語研修
- 原子力施設の見学

原子力規制を学ぶ

- 専門分野ごとの必須知識の習得
- 実技による体験学習
- 規制業務のOJT

更なる専門教育

- ハイレベルな専門性の習得
- 発電所の運転シミュレータ実習
- チーム業務におけるマネジメント能力の習得

任用資格取得

（e-ラーニング）

- 全職員が知っておくべき、公務員倫理、ワークライフバランス等に係るe-ラーニング

（国際性を磨く）

**語学能力の向上
国際感覚の醸成**

- 原子力に関する英会話
- 国際会議への参加
- 海外規制機関への派遣
- 行政官長期在外研究員の派遣

（任用資格制度）

- 専門的な業務を行うため5つの資格を設定
- 資格ごとに定められた研修、OJT等を経て資格を取得
- 技術系・事務系問わず取得可能



研修制度利用者の声

CASE 01 任用資格制度(基本保障措置査察)



庁内研修を通して目指す、事務官から査察官への道

研修や保障措置室での業務等を通じて、次第に事務官としてだけでなく、より深く原子力施設を理解し、核物質が平和目的だけに利用され、核兵器等に転用されないことを検認する保障措置業務を行う査察官として原子力規制業務に携わりたいと思うようになりました。原子力はもちろん、理系のバックグラウンドはなく、原子力の専門知識や規制業務にハードルの高さを感じることもあるため、研修(保障措置関係、原子力全般、英語等)を積極的に受講するようにしています。過去には、業務で保障措置関係のプレゼンテーションを複数回行われたことがあり、その際に自分で説明できるように勉強をしたことはとても良い機会でした。

現在、査察官になるために必要な任用資格を取得すべく、様々な研修を受講しています。その中には保障措置だけでなく、原子力全般や他の業務にとっても重要な内容も含まれており、原子力規制庁のどの業務を担当していても役に立つものだと思っています。

落合 美里

一般職(大卒・行政)
令和3年度入庁 長官官房 放射線防護グループ 放射線防護企画課 保障措置室
外国語学部 ドイツ語専攻

CASE 02 行政官長期在外研究員制度



科学技術と社会の関係改善に向けた取組を学ぶ

2年間の英国留学では、1年目に科学技術を一般向けに伝えるコミュニケーションについて学び、多様な属性を持つ相手に応じた伝え方の重要性を認識しました。2年目は科学技術社会論を専攻し、科学政策や規制を含めた科学技術と社会との関係について学びました。留学を通じて、科学技術と社会の関係改善に向けた英国の多様な試行錯誤に触れることができました。留学前は、必要な英語試験の成績向上に苦労しましたが、仕事と勉強を両立して克服しました。

現地での経験によって、科学技術に基づく意思決定では避けられない不確実性への対処を含めた規制行政への理解を深めるとともに、国民とのより良いコミュニケーションを模索する土台が身に付きました。継続的、積極的に学ぶ姿勢を養う貴重な機会となりました。

穂藤 優次

選考採用(原子力安全基盤機構採用)
原子力規制部 審査グループ 実用炉審査部門
工学研究科 原子核工学専攻(修士)

ワークライフバランス

職員のとある2日間



加藤 美穂

一般職(物理) 平成20年度 経済産業省入省
原子力規制部 審査グループ 研究炉等審査部門
教育学部 環境教育課程環境教育(物理)

研究目的等で核燃料物質(ウラン、プルトニウム等)を使用する際には許可が必要となりますが、そのような核燃料物質の使用に関する審査を担当しています。私は子どもが3人(小学生2人、未就学児1人)いるため、早出勤務、休憩時間の短縮をはじめ、テレワーク等の制度を上手く活用しつつ、短い勤務時間の中で効率的に業務を進められるよう努めています。担当している審査業務は、申請される様々な内容を理解する必要があり、大変ですが、じっくりと考え、マイペースに進められる業務でもあるため、子どもを持つ職員であっても、仕事と子育ての両立が可能です。



出勤した1日

制度を利用 **早出勤務** 1日の勤務時間を変えずに始業時間を早くできる制度

朝 7:30
9:00 勤務開始

班員との打ち合わせ



担当する審査案件について、申請書の内容を確認したり、審査の方針を相談したりします。

10:00

制度を利用 **休憩時間短縮** 通常60分の休憩時間を45分又は30分に短縮できる制度

11:30
12:00

幹部への説明



審査結果を審査書として取りまとめ、幹部に説明します。問題がなければ、決裁してもらいます。

14:00

制度を利用 **育児時間** 子を養育するため、始業時又は終業時に1日2時間まで勤務を免除される制度

15:15

保育園お迎え、帰宅

17:00

テレワークした1日

テレワーク 子どもの急な体調不良等により、急遽、テレワークに切り替えたい場合、勤務開始前までに申請すれば変更することも可能

事業者とのオンライン面談



事業者と面談し、申請内容の詳細を確認します。面談はオンラインで行うことが多いので、テレワークでも対応できます。

《 学生さんへのメッセージ 》

仕事と家庭の両立を目指し、利用できるワークライフバランスの制度を可能な限り活用して仕事をしています。子どもの就学のタイミングで利用できる制度が変わってきますが、テレワークを多めにするなどして対応してきました。子どもの急病等で、業務スケジュールの見直しが必要な時もありますが、できるだけ業務が滞らないよう、周囲の方に相談することを心掛けています。原子力規制庁は、男女を問わず、家庭の事情で就業が困難とならないよう、柔軟に働くことができる環境があると思います。

数字で見る原子力規制委員会

数字で見ると気づくことがある。
原子力規制委員会の気になるあれこれを数字で表してみました。

全職員数

令和6年度定員



1133名

新規入庁者数

令和6年度



うち女性

38名 12名

平均年次休暇 取得日数

令和5年

本庁平均

15.4日

夏季休暇取得率

令和5年



99%

月平均 超過勤務時間

令和5年



本庁平均

23.7 時間/人

※年平均総超過勤務時間÷12で算出

育児関係休暇取得率

令和5年度

- 育児休業
- 配偶者出産休暇
- 育児参加のための休暇

男性



女性

100% 100%

障害者である職員の雇用率

(法定雇用率)

令和6年6月1日時点



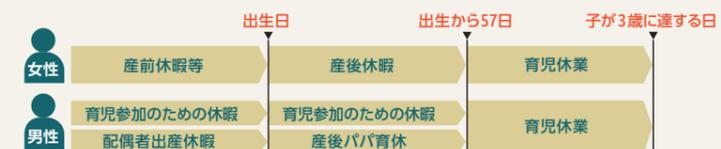
3.27%

国や地方公共団体等の令和6年度目標2.6%

まだまだあります! 制度の紹介

出産・育児を支援する制度

女性の場合は出産予定日前6週間からの産前休暇、出産後8週間の産後休暇、妊娠期間中の定期検診などの休暇が取得できます。男性の場合は配偶者出産休暇や育児参加のための休暇を取得できます。また、女性・男性ともに子が3歳に達する日まで、任意の期間で育児休業を原則2回まで取得できます。さらに男性の場合は育児休業に加えて出生日から57日以内に産後パパ育児を2回まで取得できます。



- 年次休暇 …… 年間20日まで※1
- 夏季休暇 …… 7月から9月※2までに連続して3日
- 結婚休暇 …… 結婚の5日前から1月後までに5日
- 子の看護休暇 …… 小学校3年生までの子1人につき5日(最大10日)※3
- フレックスタイム制度 …… 1日当たりの勤務時間を調整
土日以外に週1日勤務しない日も設定可能
- 介護休暇 …… 要介護者の介護が必要な期間において通算6月まで

※1 残日数は20日を限度として翌年に繰越可能。
※2 業務の繁忙期に重なるなどの事情が認められる場合には6月から10月までに拡大。
※3 学級閉鎖や卒園式・入学式への参加等にも取得可能。

新人職員対談

CROSS TALK

職場はオープンで、成長を実感できる環境



趣味は
フットサル、登山、乗馬

趣味は
家事、料理、散歩

趣味は
カフェ巡り

趣味は
ライブ、旅行

佐藤 優加

東 知希

石川 裕真

佐々木 瑛麻

総合職(院卒・農業科学)
原子力規制部
審査グループ 実用炉審査部門
園芸学研究所
環境園芸学専攻(修士)

一般職(原子力工学)
放射線防護グループ
放射線防護企画課 保障措置室
環境・社会理工学院
融合理工学系
原子核工学コース(修士)

一般職(大卒・事務)
長官官房
会計部門
法律行政科

研究職
技術基盤グループ
放射線・廃棄物研究部門
人間健康科学研究所
放射線科学域(修士)

Q1 原子力規制庁を志望したきっかけを教えてください。

佐々木 大学では放射線学科に所属し、修士課程で学んだ知識を活かして放射線防護に関する安全研究に携わりたいと思ったからです。放射線学科は病院への就職が多いのですが、私は原子力規制庁以外受けませんでした。

佐藤 私は逆に就活まで原子力規制庁の存在を知らなかったんです。学生時代に学んだ農学と違う分野に行きたかったこと、父と同じ国家公務員になりたかったことが大きいです。

東 学生時代は核不拡散・核セキュリティに係る研究をしていました。専門性を活かし、IAEAの保障措置活動による原子力の平和利用に携わるとい原子力規制庁でしかできない仕事に魅力を感じ志望しました。

石川 公務員志望だったのですが、説明会で「事務職から技術系へキャリアを移すことができる」と聞いて原子力規制庁を志望しました。キャリアが限定されないのが魅力でした。

Q2 職場の雰囲気はどうですか?入前のイメージと「違う」と感じることはありますか?

石川 正直入前は「堅くて殺伐とした職場なのでは」というイメージがあったのですが、いい意味で裏切られました。考えていた以上に明るい職場で、風通しもいいです。

東 確かに風通しがいいですね。あと、理系の人が多いイメージでしたが実際には文系の人や経験者採用の人など皆さん色々なバックグラウンドをもって、それぞれのいいところを吸収できるのも魅力です。

佐藤 入前は縦社会のイメージでした。同じ公務員の父から「お前は3日で辞める」と脅かされましたが、入ってみると風通しがよく、困ったことがあってもみんな親身になって接してくれるので助かっています。

まとめの一言 役所という固定観念や「原子力規制庁」という字面から「堅くて息が詰まりそう」というイメージを抱きがちですが、みんながみんな「風通しがいい」と言っているように職場の雰囲気はオープン。クロストークでは服装や髪型・髪色などの自由度を挙げる人もいました。

Q3 現在の仕事内容について教えてください。また難しいと感じることはありますか?

佐々木 調査官として委託事業に従事していますが、多くの事業が同時進行で流れているので対応がなかなか大変です。特に国際的な話が難しいと感じています。

佐藤 審査会合などをつつがなく進めるための「ロジ」と呼ばれる様々な準備・調整業務を行っています。ロジがないと会議が成り立たないので重責ですが、全体を見通すことになるので学びも多いです。

東 関係機関や組織内との調整窓口を担っています。IAEAの査察対応など出張も多いです。グローバルな対応を求められるので緊張しますが、日本を代表してIAEAと直接交渉するという原子力規制庁ならではの重要な役割に携わることができる喜びがあります。

まとめの一言 仕事内容は部署により様々ながら、他の組織と異なるのは、ほとんどが「原子力規制庁でしかできない」業務であること。クロストークではみんなが「用語の難しさ」を挙げていましたが、そこは慣れ。誰もがグローバルな現場で活躍できるのが魅力です。

Q5 上司や先輩方はやさしいですか?

石川 褒め上手な方が多いですね。ちょっとしたことでも「いいね!」と言ってもらえるのは嬉しいです。

佐々木 私の周囲も、そういう方が多いです!プレゼンや資料作成等を褒めてくださるので、とても励みになります。

東 IAEAとの会合への参加や、OJTとしてのIAEAとの査察への同行など、若手でも成長のチャンスを与えてもらっていると感じています。

まとめの一言 クロストークからは上下関係もオープンな印象が伝わります。コミュニケーションが盛んで若手でも重要なプレゼンを任せられるなど、組織全体でモチベーションを上げて成長していこうという関係性がうかがえます。

Q4 原子力規制庁の仕事のどんなところにやりがいを感じますか?

佐藤 多くの府省庁の業務が何かしらを「推進する」のに対して、ここは「中立に立って規制する」業務が主です。我々が審査した原子力発電所が稼働したときにはニュースになります。難しいけど誰かがやらなければいけない仕事という点がやりがいです。

石川 私は会計部門に所属しているので、原子力規制庁の予算などの会計業務全般を支える役割を担っています。例えば予算要求においては、財政当局に対しその必要性などを的確に説明し新しい事業の予算の獲得をする、そこにやりがいを感じます。

佐々木 国際的な決定事項をいかに自国の法律に落とし込むのか。時間がかかる仕事ですが、こうした国民生活に関わる部分を担うことに責任とやりがいを感じています。

まとめの一言 IAEAなどの国際機関や国会など、外部とのやり取りを通じて国民生活に関わる重要な役割を担えることは原子力規制庁ならではのやりがいといえるでしょう。またクロストークでは視野の広がりや研修の充実など、自身の成長を実感できるという声も聞かれました。

Q6 ワークライフバランスはいかがでしょう。プライベートは充実していますか?

東 退職後は、同期と食事に行ったり、趣味に時間を使ったりして充実した毎日を過ごしています。また、在宅勤務を組み合わせるなど、柔軟な働き方ができています。

佐藤 むしろ学生の頃の方が研究に追われてしんどかったです。仕事はきちんと終わりが見えるし、達成感や喜びなどメリハリがある。休日は遊びまくっています。

佐々木 確かに時間的には今の方が楽ですね。推しのライブにもたくさん行けるし。プライベートは充実しています。

まとめの一言 プライベートについては、みんなが「学生時代よりも使える時間が多い」と話しているのが印象的でした。庁舎が六本木ということもあり、仕事を上げればカフェ巡りをしたり飲みに行ったり、また部活やサークル活動も盛んなので、オフは様々な楽しみ方が可能です。

職員へのアンケート ～入庁してからの印象～

原子力規制庁で働く職員に、この仕事への思いや感じていることを聞いてみました。リアルな声をお届けします！

Q1 そもそも原子力規制庁(国家公務員)への就職を目指した理由は？

薬学部出身の自分は「人の健康を守る」ことに興味があり、医療系など様々な職業の中から、より大きなスケールで仕事のできる国家公務員に惹かれ、その中で、「原子力規制を通して人と環境を守る」という理念が自分に合っていたから。

利益にならず、なかなか人がやりたがらないけれども社会にとって必要な仕事というものにやりがいを見つけたため。

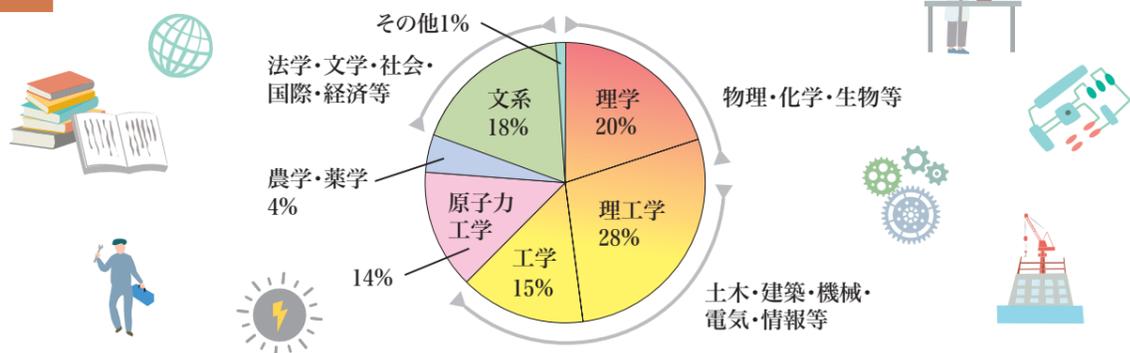
自分の専門に限らず、様々な業務にチャレンジしたいという思いが強く、それが叶えられる環境が整っていると感じたから。

原子力規制庁独自の資格や研修の制度を通じて、技術系職員として1つの分野を極められることに魅力を感じたから。

得られた研究成果が直接国の施策に反映されるといふ他にはない大きな魅力があったから。



Q2 学生時代の専攻は？



Q3 民間企業等と併願をする上で大変だったことは？

民間企業の就職活動と国家公務員の試験の勉強の時期が重なって大変だった。学校の研究室で、実験中の待機時間に勉強したり、時には研究を切り上げて勉強したりするなど、時間を作る工夫をした。

志望先を公務員か民間企業かで1つには絞らず、就活しながら、仮に何かの日程と重なった場合にはどちらを優先したいのかを常に意識しながら日々を過ごした。

周りの同期が3月～4月には就活を終えていたので、就職先が自分だけ決まっていなかったことに不安を感じることもあった。

内定の連絡を受けた民間企業から受諾の返事を何度も確認されたこと。



地球環境学 専攻

杉山 紗耶

一般職(大卒・林学) 平成27年度入庁
原子力規制部 審査グループ
核燃料施設審査部門
卒業論文のテーマ:有機質資材の農地での利用について



大学・大学院では地球環境学系を学び、国家公務員試験の区分は林学を選択しました。原子力分野とは全く異なる領域ですが、人と環境を守るという使命に共通性を感じています。審査や検査の業務でも、現実的な側面よりも先に人の安全や環境にどう影響を与えるかという視点を持つことができたのは、この分野を勉強してきたおかげだと思っています。

物理学 専攻

島田 真実

一般職(大卒・物理) 平成28年度入庁
原子力規制部 審査グループ
研究炉等審査部門
卒業論文のテーマ:宇宙膨張とエントロピー臨界値



審査業務では、事業者からの説明において物理現象を含む幅広い科学の知識が用いられることが多いので、高校や大学で学んだ科学知識が役立ちます。また、説明内容を鵜呑みにせず、科学的・技術的な見地からその確からしさを問い直す姿勢が重要です。この問いかけの姿勢は研究経験のある理系出身者の強みであり、大きな助けとなります。

Q4 業務の中で学生時代の学びを活かしているところは？

元素記号への抵抗感の少なさ、化合物重量から元素重量への換算など、核燃料物質に対して学生の時に学んだことと全く同じではないが、業務に必要な専門知識を勉強する基盤になる。

病院実習や、大学院在学中の診療放射線技師としての仕事を通して学んだ、病院での放射線被ばくの管理についての知識を活かすことができる。また、放射線の人体影響についての知識や放射線計測の知識を活かすことができる。

法学の知識は業務で法令の読み方や解釈の仕方の相談を受けたときなどに、ある程度専門性を活かしていると思う。また、訴訟を担当することもあり、そこでも活かしていると思う。

物理学の基本的な知識は原子力関係業務の中で役に立つ機会がある。



物理系

化学系



放射線系



国際系

法学系

大学で国際経済を学び、英語を使う機会が多かったが、原子力規制庁でも国際関係の業務が色々あるので、活かせる機会があると思う。

応用化学 専攻

高橋 知也

一般職(大卒・化学) 令和4年度入庁
原子力規制部 審査グループ
実用炉審査部門
卒業論文のテーマ:超臨界二酸化炭素を利用した高分子材料の調製



原子力分野といっても様々な、物理や化学などの学生時代に学んだ知識も必要になることがあります。難しい内容の業務に直面したときに、例え全部でなくとも、一部を理解できることで、仕事のスピード感が全く変わってきます。特に理系出身の職員は、その一部を理解できる業務が多いと思いますので、活躍できる場がたくさんあるはずです。

生物科学 専攻

細川 誠司

一般職(大卒・農学) 平成31年度入庁
長官官房 緊急事案対策室
卒業論文のテーマ:微小重力条件下での細胞の挙動について



生物科学を専攻していましたが、原子力については詳しく学んでいなかったため入庁前は不安がありました。しかし、実際に仕事をしてみると、原子力に特化した知識だけではなく、例えば建物の健全性を考える際には素材の化学的変化に注目するなど、様々な観点から考える必要があり、大学で学んだ知識を活かせる場面があります。

地方の体制

原子力規制事務所・分室

- 原子力施設近傍に常駐し、原子力規制検査や原子力防災のための取組を実施
- 環境放射線モニタリングについて関係機関との連携・調整を実施

原子力艦モニタリングセンター

- 国内に寄港する原子力艦に関する環境放射線モニタリングを実施

六ヶ所保障措置センター

- 再処理施設等に対する査察などを実施

地域原子力規制総括調整官事務所

- 県庁などに駐在し、関係機関との連携・調整を実施

原子力安全研修所

- 検査装置の模擬設備を用いた研修を実施



原子力安全研修所

福井地域原子力規制総括調整官事務所



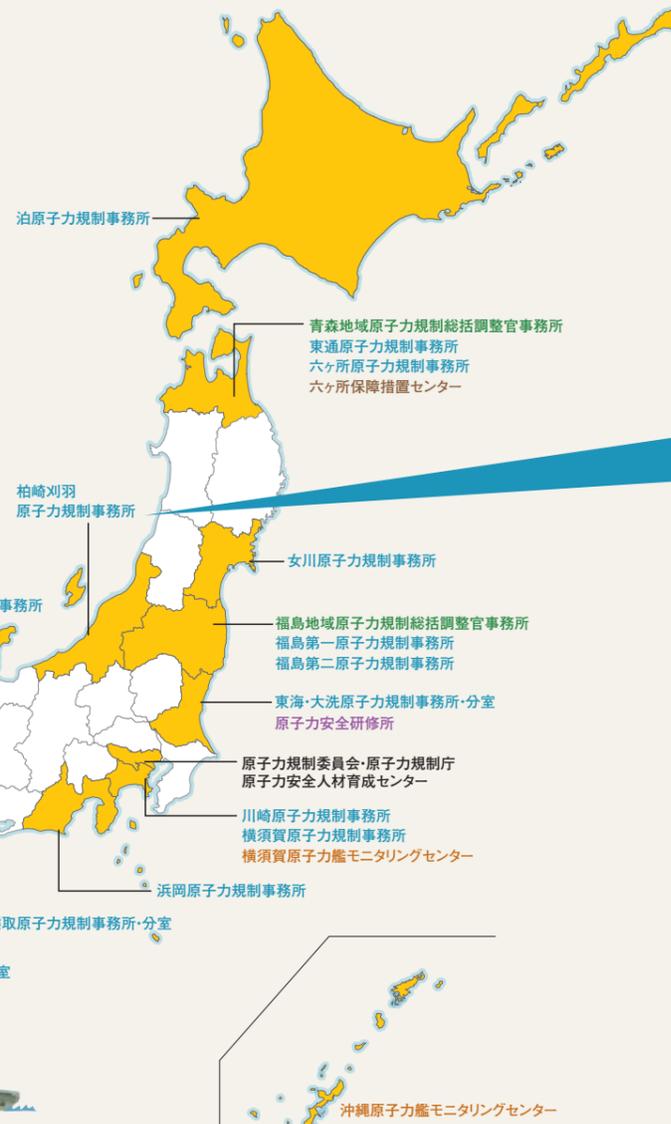
西村 正美

中級(化学)
昭和55年度 経済産業省入省
地域原子力規制総括調整官(福井担当)
工学部 工業化学科

【業務紹介】 自治体の議会や会議、報道機関等への対応や福井県内の各原子力規制事務所等との調整等を担当しています。福井県は、稼働している原子力発電所が日本一集中しており、関心も高く話題は尽きませんが、原子力規制委員会が国民に少しでも信頼してもらえるよう、何を伝え、どのように説明すればよいかなどを自ら判断して業務を進めており、大きな責任が伴いますが、やりがいを感じながら業務に取り組んでいます。また、委員や幹部と垣根なく話せるなど、風通しの良い組織です。

Q 勤務地の魅力を教えてください。

A 海と山が近く四季を通じて風光明媚で、休日も楽しく過ごしています。また、水や米、魚、牛肉、お酒、空気に至るまで、口にするもの全てがとてもおいしく、毎日が充実しています。



海外派遣先一覧

アメリカ	■ワシントンD.C. 在アメリカ合衆国日本国大使館
ヨーロッパ	■リバプール 英国原子力規制局 (ONR) ■ロンドン 在英国日本国大使館
	■ウィーン 国際原子力機関 (IAEA) / 在ウィーン国際機関日本政府代表部 ■パリ 経済協力開発機構 / 原子力機構 (OECD / NEA) 在フランス日本国大使館

※令和6年度実績

柏崎刈羽原子力規制事務所

地方勤務職員の業務紹介

杉岡 雄仁

一般職(大卒・化学) 平成26年度入庁
原子力規制部 検査グループ
実用炉監視部門
原子力運転検査官(柏崎刈羽担当)
理学部 基礎化学科(修士)

【業務紹介】

原子力発電所での事業者の活動の監視や、現場の巡視活動等の検査業務を担当しています。業務では、現場をよく「見る」ことが重要です。設備の異常や事業者の弱点や懸念点を見逃さないよう、日々、力量向上に努めています。



- 07:45 出勤
- 08:00 事務所出発
- 08:30 原子力発電所到着
- 08:55 事業者の朝ミーティングを傍聴



- 09:40 設備の試運転を監視



- 12:00 昼休み

- 13:00 現場の巡視



- 15:30 原子力発電所出発

- 16:00 事務所到着
- 事務所のミーティングに参加



- 17:00 退勤

Q 事務所の雰囲気を教えてください。

A 互いの業務を尊重し合い、和気あいあいとした楽しい職場です。勤務する事務所には経験者採用の職員が多く、大学職員や自衛官など出身も多様で個性豊かです。

Q 事務所勤務だからこそこの良さ、大変さを教えてください。

A 現場で事業者の活動や設備を直接確認するため、学ぶ機会に恵まれています。また、人と環境を守るために最前線で重要な役割を担っており、緊急時には時間を問わず対応が必要な場面もありますが、地域の安全につながるため、その意義を深く感じています。

Q オフの日の過ごし方を教えてください。

A 温泉巡りと酒蔵(蒸留所、ワイナリー、ブルワリーを含む)巡りをしています。特に、新潟県は酒蔵が多いため、酒蔵巡りの計画を立てているときはわくわくします。また、柏崎市にはおいしい料理や日本酒を提供する店舗が数多くあり、柏崎の海の幸に新潟の地酒を合わせるときが幸せです。



採用情報

受験区分

採用後の処遇

総合職(技術系)

人事院試験

- 院卒者試験(技術系全区分)
- 大卒程度試験(技術系全区分)

- 博士卒:322,360円 ※行政(一)2級26号俸の場合
- 修士卒:302,560円 ※行政(一)2級11号俸の場合
- 学士卒:284,800円 ※行政(一)2級1号俸の場合

一般職(技術系)

人事院試験

- 大卒者試験(技術系全区分)
- 高卒者試験(技術)

原子力規制庁独自採用試験

- 原子力工学系職員採用試験

- 博士卒:296,880円 ※行政(一)1級45号俸の場合
- 修士卒:283,200円 ※行政(一)1級33号俸の場合
- 学士卒:271,200円 ※行政(一)1級25号俸の場合
※高等専門学校・短期大学を卒業し一般職大卒程度試験に合格した者もこれと同程度の俸給月額となります。

一般職(事務系)

人事院試験

- 大卒程度試験(行政)
- 高卒者試験(事務)

- 高卒者:232,800円 ※行政(一)1級5号俸の場合

研究職

原子力規制庁独自採用試験

- 研究職採用試験

- 博士卒:353,440円 ※研究2級25号俸の場合
- 修士卒:321,400円 ※研究2級13号俸の場合

※「一般職の職員の給与に関する法律」の規定によるもので、令和7年4月1日の給与の例です。学歴や職種によって異なる場合があります。
※本府省に勤務する場合の俸給、本府省業務調整手当、地域手当の合計の金額となります。

入庁状況^{※1}

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度(予定)
総合職 ^{※2} (技術系)	2(1)	5(2)	2(1)	3(0)
一般職 (技術系)	大卒程度	大卒程度	大卒程度	大卒程度
	6(2)	11(3)	10(4)	5(2)
	原子力工学系	原子力工学系	原子力工学系	原子力工学系
1(0)	2(1)	2(0)	4(2)	
高卒者	0	高卒者	高卒者	高卒者
0	2(1)	0	0	
一般職 (事務系)	大卒程度	大卒程度	大卒程度	大卒程度
	5(2)	7(5)	8(1)	9(4)
高卒者	9(3)	高卒者	高卒者	高卒者
9(3)	10(6)	13(5)	5(3)	
研究職	3(1)	3(0)	3(1)	5(2)

※1 単位:人、カッコ内は、うち女性数 ※2 令和5年度から技術系のみ採用

各職種の採用スケジュールについてはホームページを参照してください。

規制を通じて、人と環境を守る

東京電力福島第一原子力発電所事故から14年の歳月が経ちましたが、廃炉はまだ道半ばです。そのような中で、原子力規制委員会は、この事故から得た教訓を風化させないよう、私達の活動を知ってもらうための情報発信や、私達自身も若い世代に知識や経験を継承するための世代や職種を越えたフラットな対話、机上の情報だけでは感じることのできない現場を重視する姿勢を大切にしています。

また、原子力規制には、原子力の分野のみならず様々な分野の知識が必要となります。このため、職員が広い専門知識を身につけ、向上心を持ち続けられるよう、人材育成にも注力しており、将来を担う若い人達にとって魅力となる組織づくりに努めています。

原子力規制委員会は、人を想い、常に活力のある組織を目指しています。二度とあのような事故を起こさないという熱い思いを胸に、変化を恐れることなく、希望と理想を持って一緒に歩みましょう。

原子力規制委員会
委員長
山中 伸介

